



国道54号の改修要望は

景山 登美男 議員

一般 質問

令和6年 6月定例会

いざという時のために



内藤 眞一 議員

Q 飯南町版 防災計画を

地震災害が起きれば、決められている指定緊急避難所を目指す。

大きく安全な避難所であればよいが、木造の集会所等は倒壊している可能性もある。「指定一般避難所」は赤名地域4施設、谷地域3施設、来島地域11施設、頓原地域10施設、志々地域5施設が指定されている。

防災計画で「指定一般避難



頓原農村環境改善センター みせん

所」としてある頓原農村環境改善センター(みせん)への避難者は約400人と想定され、すべてを収容することは不可能で混乱を招くと思う。町としても通信関係・食品・物資等々関係業種と契約し、支障が出ないよう手配はしてあるが、大規模地震時の町民対応、町民の安全行動・支援等に今一度検討が必要と考える。

「飯南町地域防災計画」は、島根県の計画に飯南町の必要部分を付け加えてある状況。防災に対する意識を更に高めるためにも、読みやすく理解しやすい「飯南町版防災計画」を作成すべきだ。

A ダイジェスト版を 検討する

町長塚原隆昭

本町で地震による大きな被害が発生した場合は、ご指摘のように、地域全員の方が指定一般避難所で避難生活をすることを考えると、十分な避難所が確保できているとは言えない。頓原の場合、小中学校が高台にあり、ケースパイケースで考えたい。

災害は備えが重要で、日頃から町民の皆様に災害対策について理解していただくことは大切である。町の災害対



災害訓練の様子(災害対策本部)

策体制や町内の避難所、また日常の防災対策などを理解いただくことは、災害時の被害軽減にもつながる。必要な情報を抜粋したダイジェスト版の作成は、内容も含め検討する。

有事には、すぐ行動に移せることが大事で、訓練していくことが一番だと思う。

町民の皆様に防災に対する理解を深めていただくため、飯南町気象防災アドバイザーによる出前講座を行っている。地域全体で防災に対する理解を深めていただければと思う。

Q 広域行政への 負担は

3月定例会の所信表明で財政健全化について「介護保険、消防、ケーブルテレビ、ごみ処理などの広域行政に係る負担も増加傾向にあり、基金を取り崩していかねば、収支均衡が取れない状況にある」としている。広域行政に係る負担の増加がいかに財政健全化の足かせになっていると解釈せざるを得ないがどうか。

A 効率的運営を

町長塚原隆昭

広域での事業運営にあたっては、適正な事業実施の確認、関係市町で負担金の精査を行い、効率的な運営に取り組む。

Q 赤名・晴雲 両トンネルの改修は

今年1月に「国道54号改良促進期成同盟会」を設置し、2月には、国土交通省や県選出国会議員へ要望活動をされた。国道54号は、陰陽を結ぶ重要路線で、赤名・晴雲両トンネルの老朽化は言われ続けていた。

要望書には両トンネルの改修整備が掲げられている。同時改修は困難だがどう要望するのか。

A まず赤名トンネル から

町長塚原隆昭

国交省へより強固に訴えるため、沿線三市へ期成同盟会の設立を呼びかけ賛同を得た。4市町の担当部課長をメンバーとして「国道54号の勉強会」を設置し、沿線の課題を共有した。

赤名トンネルの早期改修に向け進めたい。その後、晴雲トンネルを要望する。

Q 築立暗渠を 民俗資料館に

明治時代に、山陰と山陽を結ぶ軍用道路として整備された。本町で最も難工事だったのは、赤名峠と都加賀の吹ケ峠であった。この工事の関係で注目すべきは、吹ケ峠からほぼ下りきった麓にある「築立暗渠」である。

築立暗渠は明治18年に着工し、翌19年に完成したもので、中国山地の山奥で石造アーチ構造の長い暗渠は他にはない。大変貴重な土木遺産だと思う。町長が表明された「飯南町民俗資料館」に特別展示室を設けてはどうか。

A 専門部会に諮る

町長塚原隆昭

40メートルを超える暗渠で歴史的に貴重で、アーチ状の石積みは構造物として美しさも感じる。近代化遺産だと認識している、土木遺産への認定も進められている。令和5年3月に高橋悟先生による歴史文化講演会を開催した。

町内外の有識者で構成される「飯南町文化財保護審議会」に諮り検討を進めている。



築立暗渠